

今月の安全運転管理

梅雨と事故 速度落として 事故を断て

①梅雨季の危険に備えた安全運転管理を徹底しよう

- 雨天時の歩行者に注意しよう
- 速度を落として十分な車間距離をあげよう

②異常気象時の危機管理意識を高めよう

- 緊急時の連絡体制を整えよう
- 緊急時マニュアルを作成しておこう



雨天時の歩行者の動静に注意しよう

本格的に梅雨のシーズンを迎えました。雨の日は、運転者だけでなく、歩行者の心理にも影響を与えます。たとえば、歩行者の「雨に濡れたくない」「早く目的地に着きたい」といった心理は、信号を無視した横断や、横断が禁止された場所での横断に繋がる危険があります。

また、フロントガラスに雨滴が付着すると視界が悪化して運転しづらくなりますが、視界が悪化するのは運転者だけではなくありません。頭からレインコートをかぶっている子供は、フードによって左右の視界が遮られることがあります。一方、傘を差している人は、雨が強くなるとつむぎ加減で歩きがちになり、赤信号に気づかず横断をするおそれがあります。

雨の日は歩行者も視界が悪化し接近する車に気づきにくいため、歩行者等を見かけた場合は、その動静に注意させましょう。

速度を落として十分な車間距離をあげよう

雨が降ると、濡れた路面の影響でスリップ事故が増えます。スリップ事故を防ぐには、まずは速度を落とすことが重要です。このほか、急ブレーキや急加速、急ハンドルなど急のつく運転もスリップの原因になります。無用な追越しや車線変更を控え、前車との車間距離を十分に空けて運転することを指導してください。

また、スリップ事故の一因として、タイヤの残り溝が不足しているケースも少なくありません。日常点検を確実に実施し、スリップサインが出る前に新しいタイヤに交換しましょう。

異常気象時に備えて対策をとろう

この時期は、梅雨前線の活動が活発になり、長雨や集中豪雨などの異常気象によって土砂崩れや地滑りが発生し、甚大な被害をもたらすことがあります。近年では、「平成三十年七月豪雨」が発生し、多くの車両が水没する被害も多くなりました。

もし異常気象に直面したとき、あわてないために、事前に緊急時の連絡体制を敷いておきましょう。管理者と運転者の間で迅速に連絡を取り合い、必要な指示や報告が行えるようにマニュアルを作成し、普段から運転者に対して周知徹底を図ってください。合わせて、被害に巻き込まれないため、自治体が公開している土砂災害危険箇所を共有し、事前に迂回路を周知しましょう。